

はじめに

すべての人々の尊厳が守られ、基本的人権が尊重されることは、民主的な社会の基礎をなすものです。そのために、同和問題をはじめとするさまざまな人権問題を一日も早く解決するよう努力することは、国際的な責務でもあります。そして、人権が尊重される社会を構築するためには、すべての人々が、自ら積極的に考え、行動することが必要です。とりわけ、その基礎となる教育の果たす役割には大きなものがあります。

県内の高等学校でも、平成3年改正の「同和教育の基本方針」に基づき、幼保、小中特殊教育諸学校や社会教育と連携して、地域や生徒の実態に即して、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくす意欲と実践力を持った人間を育てる教育を推進してきました。

その実践のなかで、今後に向けてのいくつかの課題とともに、「また同和教育か」という消極的な反応を克服し、差別の解消に向けた明るく展望のもてる教育の道筋もいくつか明らかにされてきました。

そのひとつの道筋は、「開かれた学校づくり」を進め、諸学校や地域と連携を深めるなかで、人権に関する諸課題の解決に向けて、生徒自身の主体性に訴える学習を組み立てることでした。自主活動や生徒の主体的な学習から生まれたもの、生徒の体験に根ざしたものの、生徒自ら制作したものへの反応は高く鋭いものがあります。

そして、実践の過程で生まれる仲間との共感、調査やボランティア活動等をやりとげた時の自己実現の喜び、それらの活動に対する校友や地域住民の共感と認知といったものを通して、体験的・具体的に人権感覚を磨き合った時、共生の社会を目指す「生きる力」も育ちます。

他方で、このような実践が行われるためには、疎外されがちな子も居場所が保障され、だれもが心を許し合って安心して生活できる、人権尊重の学級・学校づくりをしていかなければなりません。

本書では、同和問題をはじめとするあらゆる人権問題を解決する実践力を培う一助になるよう、これまでの実践の手法や成果に学び、新しい教育課題なども踏まえて、県内の具体的で身近な教材や実践例をいくつかとりあげました。そして、現実の差別や偏見をなくすことを自分の課題として捉え、お互いの人格を尊重するなかで、自己のアイデンティティを確立していく生き方を身につけられるよう、教材の中に、発達段階に即したワークショップなどの体験的参加型学習の手法も取り入れ、先生方と生徒とが共に主体的に学びあえるように工夫しました。

第1章では、高校生時代を“自分探しの旅の時”と位置づけ、お互いの人格を尊重しあい、仲間づくりを進めるなかで、“自分らしさ”を確立することについて、学び合う教材

や資料を提示しています。

第2章では、高校生として、体験的・具体的に、地域とつながり、世界とまじわりながら、同和問題をはじめとするさまざまな人権問題の解決に主体的に関わる方途を学び合えるよう、体験的参加型学習の手法も取り入れた教材や資料を用意しました。

第3章では、部落差別をはじめとするさまざまな差別とたたかってきた人々の、生活に根ざした「やさしさ、かしこさ、たくましさ」に具体的に学び合います。

第4章では、高校生として、部落差別をはじめとするさまざまな差別の、より深くより広い視点からの科学的な学習を進め、人権文化の構築を目指す生き方を模索します。

第5章では、「人権の世紀」21世紀を生きるにあたって、学校に課された新しい教育課題も踏まえた人権の息づく学校づくりを、家庭・地域と連携して、組織的に押し進めている、県内の高等学校のさまざまな実践例に学びます。

どの教材・実践例も、人権問題に関わる足元の日常的な現実に関わりながら、世界的・歴史的な視点にまで考え方や生き方を広め、深めていく“Think Globally, Act Locally”の方向性をもっています。

また、取り上げた教材には、実践の一助になればと考え、必要に応じて、その「ねらい」や「展開例」「留意点」などを付記しました。そして、より創造的・発展的な実践に利用していただけるよう、各節毎に、参考文献や発展資料、あるいは、インターネットのホームページなども含め、より詳細な情報の問い合わせ先などを、さらに、巻末には関連資料を掲載しました。

本書は、「まえがき」でも述べたように、現行の同和教育手引き書「同和教育を進めるために」（平成5年3月刊）の、高校用補完指導資料として作成したものです。現行手引き書のなかにも、いくつか高等学校の実践例が掲載されています。本書は、現行手引き書を基盤として、生徒と共に学び合う教材を主体に編集されています。そこでは、学校の校種、地域などの多様性に対応して、HR、授業、生徒会活動などで手軽に使える、身近で具体的な教材や資料を取り上げました。

本書の教材や実践例を参考にしていただき、各学校の実態に即した教材の発掘や創意ある実践が一層進められ、人権尊重の学校づくり・差別のない明るい社会づくりが一層進められることを、期待します。